
異世界トリップっぽい

藤袴 奥継

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界トリップっぽい

【Nコード】

N8585X

【作者名】

藤袴 奥継

【あらすじ】

なんだか、よくわからないうちに異世界に飛ばされ、迷宮にとばされ、モンスター倒したり、レベルアップしたりする話し。初投稿の練習用作品です、稚拙な文章ですが暇つぶしにでも、読んでいただけたら幸いです。

1話目っぽい

俺、如月士郎キサラギシロウは困惑していた。

ここは、どこだ？

確か俺は、会社で仕事して、電車で帰ってきて、家のドアを開いたんだよな…、いつから俺の家は荒野になったんだ？

玄関開けたら、荒野にポツーン、しかも今は、夜10時のはずなのに頭上には太陽が燦々と輝いていて、なんだかわけがわからない。

とりあえず、どっか人がいないか、交番がないか探そう…。

彷徨い歩く事、数時間、どうやら人のいる場所に出れたみたいだ。

俺、運がいい…と思いきや。

あきらかに、日本人に見えない人々が…、町並みも日本というよりは、中世ヨーロッパといった感じ、舗装されてない土そのままの道路に、風車のついたデッキカイ建物、道は馬車が行き交い、何より日本語で会話してないっぽい。

道を聞くとかできねええええ。

言葉通じねえ相手に話しかけるとかできねえええええ。

俺は人見知りやっちゅうねん。

途方にくれつつも、未練がましく町？の外周をフラフラ歩いていると石柱が3本程あった、文化遺産ぽい広場に出た。

正面と左右に石柱が建っていて、その中央に魔方陣ぽいものがある。

何だろうか？と、思って近づいて行って、魔方陣の上に乗ると、

ぶづううん

と音がして、景色が変わった。

???

混乱しつつも、あたりを見回す、前後、左右と煉瓦で造られた壁があり、その壁に剣が数本立てかけられている、壁と剣の他には、ドアがいくつもある。

ドアはあるけど、完全に密閉された空間だ。

あの魔方陣は転移装置か何かだったのだろうか？どっかの屋内にとばされたっばい、足元を見たが魔方陣っばいものはない、もどれなっばい。

まあ、戻れないものはしょうがない。

というか、最初の荒野にポツンの時点でもうアウトだしなあ。

なんとまあ、剣とか魔方阵とかがあつてことは、俺はファンタジー世界にでもやつて来たつてことなのかなあ？、とか考えてみる、よくある異世界トリップものみたいに召還されたりしたのかね？

とりあえず、考えていてもしょうがないので、壁に立て掛けてあつた剣を一本取り部屋を出てみた。

2話目っばい

部屋を出てみると、外にはモンスターっばいものがいた。

見た目はちよっと人間っばいが、肌が緑色で顔がのっぺりしている。体全体が鱗で覆われていて、正直キモイ、頭にはちゃんと髪の毛がふさふさと生えていて、生意気にもさらさら金髪ヘアである。

そいつがイキナリ襲い掛かってきた。

ブンッ！

と、と腕を振り回してきたのだが、こいつ、動きがメッサのろい。

難なくかわし、剣で斬りつける、こっちからみて左側の腹から右上の肩口まで剣をなぎ払う。

ザクッ！

つと、体に食い込んだ剣は意外と抵抗なくモンスターの体を切り裂いた。

上半身と下半身がさようならして、真っ二つになったモンスターは、そのまま影がうすくなり消え去った。

モンスターが消え去った後、なんとなく、体に力が溢れたように感じた。

経験値でも手に入れたのかな？

倒したモンスターは跡形もなく消え、経験値を手に入れると…、これでお金も落としてくれれば、まんまRPGなんだけどねえ。

あの後、ちらほらと見かけるモンスター剣で斬りつけつつ、フラフラと歩いていると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、モロにRPGですな、俺は異世界ファンタジー飛ばされたんじゃない、ゲームの世界に入ってしまったのだろうか…。

それにしても、レベルってなんだ？っていうか今、何レベルだ？とか、考えていたら、頭の中にステータス画面が浮かびあがってきた。

N A M E	シロウ
L V	2
H P	1 2 0
M P	1 4 0
S T	1 2 0
S T R	1 5 3
V I T	1 6 1
D E X	1 2 1

AGI	161
INT	170
RES	130

LV2か…、ステータスは軒並み100を超えているけど高いのだろうか？正直よくわからん。

まあ、これも今考えてもしょうがないんだろうなあ、そのうちわかるだろ、探索を続行じゃあ。

と再度探索を続けていると、前方にちよつと大きめの部屋が見えてきた。

大きめの部屋の中にはたくさんの緑色モンスターがいた。

さっきの奴だ…、あつ、目が合った、一斉にコツチに向かってきた。

とろい動きでコツチに向かって来る緑色モンスター、そして出入り口に引っ掛かった。

まあ、人ひとり通れるくらいの幅しかないから一斉に向かって来るとそつなるよね。

とりあえず、こいつらは動きが遅いだけでなく知能も低い事が判明した。

たぶん、カラスとか犬よりバカなんだろうなあ。

とりあえず出入り口で引っ掛かっている奴らを斬り倒し、部屋の中へと踊り入る。

囲まれて圧殺されるとヤバそうだが、こいつら動きがとろいし、頭も悪いから連携なんてしないだろうし、そうそう囲まれたりしないだろう。

斬る 切る KILL とブンブン剣をぶん回しモンスターを薙ぎ払う、数十体ほどモンスターを屠ると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、本日2度目のレベルアップですな、ステータスは…、

NAME	シロウ
LV	3
HP	121
MP	140
ST	121
STR	154
VIT	162
DEX	122
AGI	163
INT	171
RES	131

ほとんど上がってないなあ、まあ、いいか…。

剣をもう一振りして、最後のモンスターを倒す、他のモンスター同様消えたと思ったら、なんか落ちてる。

ドロップアイテムって奴か。

落としたものは、何だか茶色くて丸っこい物体だった、というかパ
ンに見える。

ちっさい、フランスパンといった感じだ。

グウーっ

腹が鳴った。

そういえば昼から何も食ってなかったなあ、腕時計を見ると3時
を指し示している。

午前3時、腹も減るってもんです。

とりあえず、パンを食ってみる、固い、そして、まずい、だが、腹
は満たされた。

腹が満たされたら、眠くなってきた。

考えてみたら、今日はハッスルしまくってた事になるからなあ、体
が睡眠を求めているぜ。

だが、此处で寝るとさっきのモンスターに襲われそうだ。

最初の部屋に戻って、寝ることにしよう、ドアがついていたし何と
かなるだろ。

最初の部屋に戻ってきた。

ドアを閉める、ついでに鍵がついていたので鍵も閉める、あの緑色モンスターに鍵開けのスキルがあるとは思えないので、これで大丈夫だろう。

床に横になって目をつむると、一気に睡魔が襲ってきた。

おやすみなさい。

3話目っぽい

翌日、目を覚ます。

一瞬どこにいるのかわからなかったが、煉瓦の壁を見て自分が何処にいるのか思い出す。

夢じゃなかったんだなあー。

のどが渴いたので、コップを持って蛇口をひねって水を出す、そしてコップいっぱい注がれた水を飲み干す、ゴクゴク、うまい。

…

蛇口？

よく考えると、蛇口から水が出るって、変だよな？

とりあえず部屋を探してみる。

壁が煉瓦で出来ている以外は、普通のマンションルームって感じだった。

今、俺がいるところは玄関兼キッチンといった感じだ、剣が立て掛けられていたのも玄関部分だな。

奥にもう一部屋あって、ベッドが備え付けられている、他には風呂とトイレがあった。

しかも、トイレは水洗、水はどこから来ているのだろうか？

風呂も蛇口をひねるとお湯が出る、シャワーもついてる、いたれりつくせりだな。

キッチンである、此処には流し台とガスコンロ、なべとフライパン、ナイフやコップに皿もある、調味料の類は置いてなかった。

とりあえず、いい拠点ゲットできたということで、食い扶持を稼ぎにいけますか！

ガチャ！

っと、ドアを開けると目の前に緑の物体が…

びっくりして、一歩引いて部屋に戻る、と、緑モンスターは何事もなく通り過ぎていった。

どうも、部屋の中に入ると俺のことを認識できなくなる、というか、この部屋自体を認識できていないっぽい。

これは、実験してみる価値があるな。

ドアを開けて適当につつかえになる物を置いて、ドアを開けっ放しにしておく、んで、緑モンスターを部屋の前まで誘導してきて、サッ、と部屋に入る。

すると、俺が部屋に入った、とたん標的である俺の事を見失ったのか、フラフラとそのままどっかにいってしまった。

ドアは開けっ放しで視線は通っているので、見えなくなったから見失ったという事は100%ありえない、部屋にはモンスターを寄せ付けない結界でもあるのだろうか？

何にせよ便利な事には間違いない、深く考えたら負けな気がするので、当初の予定通りにモンスターぬっ殺して食料ゲットするために出かけますか！

今日も緑色モンスターをボコにする、剣でザクザクと簡単に倒せる、そして、50匹に1匹くらいの割合で食い物をおとす。

パン2個としなびた野菜、カツチカチのチーズに塩をゲットLVも4に上がったし、腹も減ったし、部屋に帰って飯にすることにする。

NAME シロウ

LV 4

HP 123

MP 143

ST 124

STR 156

VIT 163

DEX 124

AGI 166
INT 174
RES 132

部屋に帰ってきた。

とりあえず、めしだめし、パンに軽く水を含ませしめらせる、その後、後に軽く火であぶる。

チーズもあぶって切れ目を入れたパンにぶっこむ、ついでに野菜もぶっこんで簡易ハンバーガーの出来上がりだ。

水を含ませ、軽くあぶったおかげでパンは若干やわらかくなっており、チーズの塩気と混ぜて、そこそこおいしく食べた。

もう一個のパンは、とりあえず置いておく。

俺の着ているサラリーマンスーツ（間接部はストレッチ素材でウオッシュャブル機能つき9万5千円）は意外と収納力があるが、服をパンパンにさせた状態で戦闘したくはないしな。

腹も膨れたし、もっかい緑モンスター狩りじゃー！

…

ザックザック、グシャー　　ザックザック、グシャー

延々と緑モンスターを倒していく。

ボグシャー　ボグシャー　ボグシャー　e n d l e s s

…飽きてきたので、帰る事にする。

今日の戦果は、パン8個、チーズ6個、萎びた野菜5個、塩少々、干し肉1切れ、んでLVが5になった。

N A M E　シロウ

L V　5

H P　1 2 4

M P　1 4 6

S T　1 2 7

S T R　1 5 8

V I T　1 6 5

D E X　1 2 6

A G I　1 6 9

I N T　1 7 5

R E S　1 3 3

今日はもう風呂に入って、簡易バーガー食って寝るか…。

4話目っばい

翌日…、ここに来てからもう3日目だな、とりあえず腹ごしらえして、今日も狩りに行くか…。

緑の奴らを倒しながらそこいらをウロウロする。

適当に歩いていると、ちよと雰囲気の違う部屋にでた。

部屋の中央には緑の奴と同じ見た目で体色が赤くなつた奴がいる、色違いだしボスモンスターだろうか？

警戒しながらも近づいていく、緑狩りはもう飽きたんじゃあー！もつと歯ごたえのある奴来ーい！

ある程度近づくと赤い奴が襲い掛かってきた。

が…、

こいつも、とろい、緑の奴より若干速い気もするが相手にならん。

ヒョイツ

と攻撃をかわし、サクサクと剣で斬る、袈裟懸けに斬りつけると一撃で死んだ。

「赤い奴弱っ！ボスじゃねえのかよ！」

赤い奴は、緑の奴同様霞となって消えていった。

すると、ピコーンと音がしたかと思うと

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

という、音声が頭の中に響いてきた。

そして、目の前に3つのアイテムが置かれていた。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、カッコいい、勇者とかがもってそう。

2つ目、革製のミニバッグ？腰につけるタイプのものっぽい、かわいい。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

…どれがいいのかわからん、適当でいいか、とりあえずなんか心惹かれたミニバッグをゲットする。

と、手をつけなかった剣と栄養ドリンクのビンが霞となって消えてしまった。

選ばなかったものは消えるのか…、それよりバックじゃ、革製ミニバッグを腰につける、ふむ、いい感じだ。

バックを付け終わると、また頭の中に音声が響いた。

【次のなかから、欲しい能力を選んでください】

【戦士の才能】

【解析】

【ドロップ率UP】

ふむ、この3つの内のどれかが得られるのか、まず1つ目はいらんな、モンスター簡単に倒せるし、三つ目はひかれるものがあるがどうせ良いアイテムは手に入らないだろうし、とすれば2つ目かな？解析って事はアイテムの効力とか、わかりそうだな、それに、なにより優先すべきものは情報だろう、せつかく手に入れたアイテムも使い道がわからないと、意味ないし、よし、これに決めた、手に入る能力を決めたことを意識するとまた音声が頭の中に響いた。

【ピロリン、シロウは【解析】の能力を手に入れた。】

能力を手に入れ終わると、目の前に微妙に光る魔方陣がでてきた。

これに乗れば次の階層に進めるといふ事だろう。

先に進む前に、ミニバッグの能力が気になるから解析を使ってみよう。

ジッと、ミニバッグを見る、これで使い方はあっていると、思う…、しばらく見つめてると情報が頭に浮かんで来た。

【【無限のポーチ】いくらでも、無限に物が入る、入ったものは垂

空間に保存され劣化しない】

おおっ、これは便利なものを手に入れたぞ、ようはドラちゃんのポケットみたいなものか、今まで持ちきれなくて放置していたものをコイツに入れられるし、なにより劣化しないっていうのは大きいなあ。

ためしにポケットにあった、パンを入れてみる。

明らかにパンの方が、ポーチの口より大きいが入るような気がする。

パンをポーチの入り口に近づけていくと、グニヨンと入り口が延びてパンがスツと吸い込まれた。

取り出すときはどうするんだろ？

手を入り口に近づけると、グニヨンと入り口がのびて、パンがするすると出てきた。

おお！こいつは、かなり便利だぞーあたりを引いたな！

とりあえず、持つてるアイテムを全部ポーチにぶっ込んだ。

これでよし！次の階層に進もう！

魔方阵に乗ると、一瞬、体全体が輝き、次の瞬間には別の場所に入った。

着いた場所は4畳くらいの空間で、左手にドア、前方に魔方阵があ

った。

この魔方陣に乗ると元の場所に戻れそうだな、乗ってみるか。

前方の魔方陣に乗ると、次の瞬間には見覚えのある場所、ゲートキパーを倒した場所にでた。

もっかい、ボス部屋の転移魔方陣に乗る。

さっきの4畳間に出た。

とりあえず階層を進んでも戻れる事が判明した、安心設計だな。

次に左手のドアを開けて外に出てみる、すると1番最初いた拠点部屋と同じような場所にでた。

トイレ付き、風呂付、キッチン付きの煉瓦部屋、違うのは今出てきた転移部屋が追加されている事くらいか…。

ああ、あと調理器具の類がおいてない…、最初の部屋からもってこないとなあ。

というわけで、最初の部屋から調理器具を持ってきた、【無限のポーチ】があるから楽だった。

それじゃあ、二つ目の階層の探索と行きますか！

毎度のごとくふらふらと出歩く。

2階層目には緑の奴の中に、ちらほらと赤い奴が見かけられた。

ふと、思いついて解析を使ってみる。

ジーツ

緑の奴は【養殖人間】ようしよくにんげんというらしい、こいつらが養殖だとすると、俺は天然人間になるのだろうか？

まあ、そんなことは置いといて、【解析】の能力は相手のステータスも確認できるようだ。

緑の奴のステータスは

LV	1
HP	100
MP	10
ST	10
STR	100
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

こんな、感じだった。

固体によって多少能力が違うが、平均するところなる。

んで赤い奴の方はというと、名前は【養殖人間・亜種】ようしよくにんげん あしゆでステータスは

LV	1
HP	120
MP	10
ST	10
STR	120
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

って感じだった。

俺のステータスと比べるとダイブ低い、メツチャ弱い、だから楽勝だったのか。

まあ、弱いとわかったら遠慮はいらねえ毎度のようにザクザク行きますか！

ザック ザック ザック endless

赤い奴も何十匹と倒すとアイテムをドロップした、赤い奴のドロップアイテムはトイレットペーパーとかティッシュペーパーとか生活雑貨だった。

今日の成果

LV5 LV7

NAME シロウ

LV 7

HP 128

MP 150

ST 130

STR 162

VIT 167

DEX 131

AGI 174

INT 177

RES 135

生活雑貨多数、食料多数ゲット。

ある程度探索と、赤い奴狩りを終えたので、今日は探索を終えて風呂は入ってめし食って寝る事にした。

おやすみなさい。

4話目っぽい(後書き)

投稿して改めてわかる、自分の文章力のなさ
精進せねば！

5 話目っぽい(前書き)

モンスター解析時のステータスを変更しました。

思いつきで書いてるので、後から、ちよくちよく細かいところを変更したりします。

5話目っぱい

今日も今日とて探索じゃあ！

と、モンスターを倒しつつ探索を続行すると、また雰囲気の違い部屋に出た、通称ボス部屋（俺命名）

中央にいるのは、青い奴だ。

解析、解析。

【養殖人間・変種】
ようしよくにんげん へんしゆ

LV	3
HP	1 2 3
MP	1 1
ST	2 3
STR	1 2 3
VIT	1 1
DEX	2 2
AGI	2 2
INT	2 0
RES	1 2

こいつも雑魚だな、サクッと殺っちまうか！

サクツと殺つちやいました、横薙ぎ一閃です。

そしてまた、脳内にピコーンと音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしか…、最初のは初回ボーナスみたいなものだったのかな？

能力が得られるだけでも大きいし、問題ないけどね。

今回得られる能力は

【戦士の才能】

【共通語／会話・読み書き】

【ドロップ率UP】

という、ラインナップだ。

ん〜、この中だと…、とりあえず、上の二つはないなあ、【戦士の才能】は前回と同じ理由でなしだし、会話は話す相手がいない。

こじは、【ドロップ率UP】にするしかないかあ。

というわけで【ドロップ率UP】の能力をゲットする事にし

た。

【ピロリン、シロウは【ドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

魔方陣に乗って次の階層に行く。

前回とおなじく4畳間にでた、左手にドア、右手にはエレベーターのっぽいもの、前方には魔方陣。

エレベーターっぽいものが、新しく追加された施設かな？

ジーツ

と見て、【解析】を発動する。

ふむふむ、どうやら、行きたい階層の番号を入れて、ボタンを押すとその階層の拠点部屋に連れてってくれるものようだ。

ただし、自分が行った事のある階層にしか行けないし、この階層より前の階層にはいけないらしい、と、言う事は必然的に今は使えない代物しろものだな。

まあ、入力しなければならぬ数値がアラビア数字じゃないから、どっちみち使えないがな！

先の階層に進んでいけば、使う機会もあるかもなあ、次の能力取得では共通語の取得を考えたほうがいいのかもれない。

部屋に入るといっご前の階層同様の部屋だった、ついでに調理器具

の類がない、取りに行かねば…。

赤い奴や緑の奴をぬっ殺しつつ、調理器具をとりに戻る。

【ドロップ率UP】の恩恵か、倒せば必ずアイテムを落とすようになった、こいつらの落とすものは腐るほどもってるし、あんまりいらないけど。

さて、3階層目をかろく探索して今日の探索はおしまいにするか…。

という事で毎度のごとくフラフラと出歩く、3階層目には、青い奴、赤い奴、緑の奴と3色の養殖人間が出てきた。

どうも、ボス部屋にいた奴が次の階層から通常モンスターとして出てくるみたいだな…。

とりあえず、青い奴が何を落とすか知りたいな…、2階層目のボスだった、【養殖人間・変種】はアイテムをドロップしなかったし、ボスはアイテムを落とさない仕様なのだろうか。

というわけで、青い奴をぬっ殺した結果ドロップアイテムが服の類だと判明した。

シャツとかパンツとか下着の類も落としたり、そしてサイズは何故かジャストフィットだった。

倒した人間のサイズになるのだろうか？まあ、何にせよありがたい事だ、ありがたい事だから深く考えない事にした。

それにしても、これでやっとな着替えられる、今までずっと同じ服で過ごしていたよ、バッチイ。

今着ている服は風呂場で洗濯しておこう、本当はお日様の下で乾かしたいんだけど、ここじゃ無理だし部屋干しするしかないか…、部屋干しするとちょっと臭ツたりすんだよなあ。

Orz。

風呂入って、シャツとパンツを着替えて、身も心も衣ころももサツパリした今日は、ぐっすり眠れた、いつもぐっすり寝ているような気がするが。

6話目っぽい

んっ、いい朝だ！

今日で異世界に飛ばされてから…5日目だな…、たぶん…、早くも曜日の感覚がなくなってきたぞ。

そついやあ、元の世界で俺はどういう扱いになってるんだろ？ 搜索願いつか出されてるんだらうか？

親父とお袋は心配だが…、まあ、まだ元気だったし、姉ちゃんもいるし、俺の貯金も結構あったし、そいつを使えば老後の生活は問題ないだろ、うん。

ああ、やめやめ、こんなん考えても、何にもならん、忘れる忘れる、はい！ 忘れた！。

とりあえず、今日は服の洗濯してから、探索に向かうかな…。

メシを食った後に昨日の残り湯で服を洗う、別にガス水道代を払ってるわけじゃないので普通にお湯をだしてもいいんだけど、勿体無いじゃん？

んで、洗った後に服をよくしぼる、その絞った服はいったん置いておいて、煉瓦の隙間にナイフを刺して固定する、コイツを二箇所つ

くってそのふたつのナイフの柄にヒモを結んでピーンと張る。

そのヒモに服を干す、なんでこんな事をしているかというところ、こうしないと服を干す場所がないのだ、赤い奴が物干し竿とか洗濯バサミとかはドロップしてくれただけ、流石に物干し竿置く台まではドロップしてくれなかったのだよ。

まあ、とりあえず、そうやって服を干す、干してる場所はベッドルームだ。

どうせ、ベッドルームは夜寝るときまで使わないので、昼にパンツが上のほうでピラピラしても気にならない、メシはキッチンのほうで食うし。

んで、洗濯したスーツに変わって、【養殖人間・変種】（通称青い奴）が落とした服に着替える。

着替えた服は上は綿シャツ＋厚手の綿のジャケット、下はこれまた厚手のズボンで色はグレー、生地はデニムっぽい、足は膝元まである黒い革のブーツ、一言で言うところ冒険者ルック？

前のスーツより若干動きづらいが、多少の事では破れない丈夫さに安心感がある。

さて服も着替えて心機一転、探索じゃあ！心機一転してるのにやることはいつもと同じだがなあ！

青い奴やら赤い奴やら緑な奴やら、うじゃうじゃいる。

こいつらを、毎度のごとくザクザク倒しどっちゃりと服やら生活用

品やら食料やらを手に入れ、一旦拠点に帰ってメシを食う。

LVも8に上がった。

NAME シロウ

LV 8

HP 129

MP 152

ST 132

STR 163

VIT 168

DEX 133

AGI 176

INT 178

RES 135

昼メシを食った後また探索を続ける。

またまた、どつちやりとアイテムを稼げたが、ボス部屋は見つからなかった。

家に帰ってきて、干した洗濯物を取り込む、綺麗にたたんで【無限のポーチ】にしまう。

替えの服は大量にあるから、服は洗濯しないで、一回使うごとに捨ててもいいかなあという気もするが、やっぱり勿体無いのでちゃんと洗う事にする。

さて、今日は風呂入って、メシを食って寝るか…。

7話目っばい

6日目！

今日も今日とて探索じゃあ！

一連の行動、起きる　メシ　洗濯、をした後のち、フラフラと出かける。

しばらくモンスターをやつつけながら歩いているとボス部屋にたどり着いた。

部屋の中央には黒い奴が佇んでいた。

漆黒の体に赤い瞳、金色こんじきの髪と…ってな感じで、表現すると強そうに見えるんだけどなあ…、たぶん、コイツも…。

まあ解析をかけてみるとわかるだろ…。

【養殖人間・希少種】

LV	4
HP	133
MP	21
ST	24
STR	128
VIT	23
DEX	21
AGI	22
INT	20

ん、予想通りの低ステータス、まあ、他の【養殖人間】ようしょくにんげんと比べたらかなり強いけど。

とりあえず、何も考えずに近づいて行って、剣を振り上げ振り下ろす。

「メイン！」

剣道の真似をして、頭から真っ直ぐに一閃、唐竹割だ、モンスターに反撃の暇も与えず葬り去った。

例のごとく頭にピコーンと音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回得られる能力は…

【レアドロップ率UP】

【共通語/会話・読み書き】

【盗賊の才能】

この三つか…、しつこく出ていた【戦士の才能】がなくなっ
たな。

代わりに【盗賊の才能】と【レアドロップ率UP】が入ってきたみたいだけど、選べる能力はランダムで決定しているのだろうか？まあ、そんな事より取得する才能を決めなきゃだな。

ここはエレベーターを使えるようにするために、【共通語/会話・読み書き】を取得するべきだろうか…。

だが…、【レアドロップ率UP】に惹かれる、すごく惹かれる。…

うーん、どうしようか…。

…

…

…

…いやー！これにしちゃえーい！

【ピロリン、シロウは【レアドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

うひひひ 【レアドロップ率UP】 【ゲッター】。

よしっ、次の階層に進むぞ！

例のごとく魔方陣にのり、4畳間にでる。

構造は下の部屋と一緒に、左手の部屋から出て部屋を見渡す、今回は何が増えたかな？と黙っている、部屋の隅っこにドアが1つ追加されているのを見つけた。

そのドアを開けて入ってみると8畳程の空間があつて、正面にデーソンと銀行とかに置いてあるキャッシュディスプレイのようなものがあつた。

とりあえず、見ただけでは用途がわからない、キャッシュディスプレイではないと思う、取り出し口っぽいものがやけにでかいし…。

悩んだときの為の便利スキル、【解析】を使ってみる。

どうやら、自動販売機っぽいものらしい。

アイテムの名前を入力して、代金を入れるとそのアイテムが手に入る、逆にアイテムの買取もしてくれるらしい。

ただ…、入力する文字とかが俺の知らない言語…、たぶんこの世界の共通語なので俺には使えねえ！

次は絶対、共通語を取得しなければ。

ギョツとこぶしを握って決意を固める。

まあ、それは置いて下の拠点に鍋とかフライパンとか取りに行くか…、洗濯物も干しっぱなしだったなあ。

途中、モンスターをザクザク斬りながら進んでいると緑の奴がアイ

テムを二つ落とした。

1つはいつも落とす萎びた野菜、もう一つは…たんぽぽのような花？葉っぱと茎の部分たんぽぽによく似ている。

ただ、花の部分が胡桃みたいになっている、固そう。

よくわからないがこれがレアアイテムかな？使い道がわからないので【解析】を使う、まじで便利だなこのスキル…、取得してよかった。

名前は【チョコポポ草】というらしい、胡桃っぽい花の部分を割ると中に、甘い実が入っているそう。

さっそく、割ってみる。

ふわっと香るカカオの香り、見た目こげ茶のまあるい物体。

…これは、もしかして…。

口に含んで舌で転がす、まあるい物体が口の中で甘くとけだす、この鼻に抜ける独特の香ばしくも甘い香りと、舌に広がる仄かな苦味と強烈な甘みは…。

間違いないない、こいつはチョコレートだ！チョコの部分なめていると中にはカリカリとしたアーモンドが…、いや、実際にはアーモンドじゃないんだらうけど、アーモンドが入っていた。

香ばしい香りを楽しみながらカリカリとアーモンドを噛み砕く、食べ終わった後は、なんだか幸せな気分になった。

あー、おいしかった、久しぶりの甘味だしなあ。

前の世界じゃいつでも食べたけど、コッチの世界じゃレアアイテム扱いなんだなあ【レアドロップ率UP】とって良かった。

そのまま、拠点部屋で鍋とかフライパンとか洗濯ものを回収し（洗濯物は乾いていた）上の拠点部屋に帰る。

途中で、また1個【チョコポポ草】をゲットできた、うまあー。

ああ、ついでに言うと青い奴のレアドロップは剣だった、んで赤い奴は、魔法の力で光るペンライトを落とした。

さて、ボスを三回倒して3階層進んだわけだから、最初の階層が1階層だとして、今は4階層の拠点部屋にいるわけだな。

とりあえず、昼飯を食った後に、この4階層目の探索を開始すると思いますか。

フラフラと探索をしつつ、途中で見かけた黒い奴を倒すと、コインの様なもの落とした、これが黒い奴の通常ドロップ品だな。

使用用途がよくわからないので、【解析】を使う。

…お金だ。

コインは単純にお金だった。

このコインは1000グラムコインらしい。

うむ、100クラム（以降クラムをCRMと表記します）の価値がよくわからないが…。

自販機でアイテムの売買が出来るようになれば、価値もわかるようになるだろう。

その後も、探索を続け切りのいいところで、引き上げる事にした。

黒い奴からコインを大量にゲット、あと、青い奴から防具の【ブレストアーマー】をゲット、赤い奴からジツポライターのなものをゲット、正式名称【チャツカ】マジックアイテムで魔法の力で火を出すらしい、まあ、所詮ライター程度の火なので武器にはならないだけ。

後、緑の奴がおいしそうなお肉を落とす。

名前は【ラウム肉】、夕飯が楽しみだな。

LVも9に上がった。

NAME	シロウ
LV	9
HP	131
MP	153
ST	134
STR	165
VIT	168
DEX	135
AGI	178

INT	180
RES	136

その日の夕飯はとてもおいしかった。

まるでラム肉からさらに臭みをとったような味わいで、ひと噛み事にあふれる肉汁、柔らかくて蕩ける様な舌触り、文句なく絶品だった。

ここにきて、俺的、緑モンスター株は急上昇である、よくやっつて。

ふう…、うまい飯も食えたし何だか幸せな気分だ。

明日もうまいメシのために頑張るぞー！

というわけで、おやすみなさい。

8話目っぽい

今日も今日とて探索じゃあ！というわけで、フラフラ出歩く。

モンスターを倒しながらあっちこっちへ進んでいったが、ボス部屋は見つからず、スゴスゴと拠点部屋に戻ってくる。

コインとか、武器とか防具とかマジックアイテムとか手に入れたが、まあ、それはどでもいい。

そ・れ・よ・り・も！

緑の奴がコメと醤油を落としたのだ。

日本人の魂^{ソウル}フード、コメと醤油を！コメと醤油を！大事な事だから2回いいました！

ふう…

今日の昼飯はイイものになりそうだ。

電気炊飯器がないので、ナベを使ってコメを炊く事にする。

正直、電気炊飯器以外でご飯を炊いた事がないので、うまくいくか心配だが仕方ない。

おかずは、萎びた野菜を使っておひたしを作ることにする。

しばらく待って、ご飯が炊けたように見えるのでナベの蓋をとって、ご飯をよそう。

お粥みたいになってた、水の分量を間違えたか…orz。

おひたしをおかずにお粥をすする。

ちよつと失敗、テンションが下がる、おかずも鮭の塩焼きとかほしいなあ。

メシも食ったし、午後の探索に行くかぁー、という所で、ふと自分を解析できないか気になった。

なんか、スゴイ今更感があるが…。

レベルとか数値のステータスは解析かけなくても見れるけど、解析すれば俺の種族とか確認できるかもだし見てみよう。

まず種族は…【ヒューマン・スカラー・異界種^{いかいしゆ}】

ふむふむ、たぶん【人間】＝【ヒューマン】という事なんだろう。

で、スカラーってのはなんだ？よくわかんないな？

スカラースカラースカラー…もしかして【scholar】か？

学者、もしくは、学生って意味だよな…。

俺はもう学生じゃないし…、学者ってイメージ的に俺とはかけ離れてる気がするが…、まあいいか。

んで、異界種ってのは俺が異世界人だからだな。

ふむ、ん？所持能力も見れるようだな、どれどれ

【方向感覚】 1度行った事がある場所なら、迷わずにたどり着ける。

【結界無効】 ありとあらゆる結界を存在しないものとして扱う事ができる。

【解析】 モンスターやアイテム等の能力や効力を知る事ができる。

【ドロップ率UP】 モンスターがアイテムを落とす確率を1千倍にする。

【レアドロップ率UP】 モンスターがレアアイテムを落とす確率を1千倍にする。

ふむ、能力の詳細がわかるのは有難いな。

あと、見慣れない能力があるけど、これは俺が元からもっていた能力と考えていいのかな？

【方向感覚】 って、そういや今までマッピングとか全然してないけど一度も道に迷わなかったな！

よし、自分の能力もわかった事だし、探索を開始しますか…。

今日中にボス部屋までたどり着きたいなあ。

というわけで、ボス部屋を探してうるつきまわる、俺。

途中緑の奴が【アラマキ・ジャケ】っていうアイテムを落とした。

うん、その名のとりの奴です。

今日もうまい晩御飯が食べれそうだ！それとも、あしたの朝飯用に取っておいたほうがいいのかな？

んで、ボス部屋までたどり着いたんだが。

部屋の中央に今までとは見た目が大分違うモンスターが立っていた。

【養殖人間】と同じ人型なんだけど、まず大きさが違う、身長が3mくらいある。

腕が太くて臂力があるのを見て取れる、強そう。

体は木で出来ているようだが、貧弱な感じは受けず何百年と生きた巨木のような威圧感がある。

あと、顔の鼻の部分にあたる場所から枝がびよこんと出ていて、葉っぱがついてるのがムカツク、チャームポイントのつもりか！

とりあえず、近づく前に【解析】を使ってみる。

【ウッドゴレム】

L V	5
H P	3 5 0
M P	6 1
S T	1 2 2
S T R	2 8 5
V I T	1 8 9
D E X	1 0 5
A G I	2 3
I N T	6 1
R E S	6 2

「ブーツ！」

ステータス高すぎじゃね？

【養殖人間】と比べたら段違いに強いぞ！？

あれ？でも俺と比べたらそつでもないか？イケルか？

俺のステータス

N A M E	シロウ
L V	9
H P	1 3 1
M P	1 5 3
S T	1 3 4

うむ、試しに闘ってみて駄目だったら逃げよう。

R E S	I N T	A G I	D E X	V I T	S T R
1 3 6	1 8 0	1 7 8	1 3 5	1 6 8	1 6 5

9 話目っばい

ボス部屋に突っ込み【ウッドゴーレム】に一撃をくらわす。

ガッ！

と、音がして剣が【ウッドゴーレム】の胸部に食い込むが、ほとんど斬れない。

というか、剣が引っかかって抜けない。

【ウッドゴーレム】が、剣を引き抜こうとしている俺を潰しにかかってきたので、あわてて剣から手を離し、パツ！と飛び退り距離をとる。

体には剣が食い込んだままだが、気にも留めずに動いている、こいつには、痛覚とかは無さそうだな。

新しく【無限のポーチ】から剣を取り出し、再度斬りかかる、今度は俺から見て右側になる【ウッドゴーレム】の左足を狙う。

こちらも ガッ！ と音がして剣が浅く食い込むが、たいしたダメージにはなっていない。

まあ、簡単に引き抜けるように、弱めに斬りつけてるのでしょうかがないだろう。

それにしても、木って奴は意外と堅いんだよなあ、まあ、刃が通るだけでしたが。

「おっと！」

【ウッドゴーレム】が回転しながら、右腕で俺を殴りつけてきた。

間一髪、拳をかわすと【ウッドゴーレム】の拳が地面を抉^{えぐ}った。

【ウッドゴーレム】の拳を中心に直径1m程のミニクレーターが出来上がる。

うわあ、仮にも煉瓦で出来た地面をこんだけ抉るなんて、なんちゅう馬鹿力だよ。

これは、一発でも喰らったらあの世逝きだな。

と、コイツ…、今の攻撃でバランス崩してる。

【ウッドゴーレム】がバランスを崩している内にすると近づき再度左足を斬りつける。

動きを観察した結果、コイツの効き足は左足と見た。

それからは、ずううううううと、執拗に左足を狙っていく。

ふふふ、なんどもチクチク、チクチク、同じ場所を攻撃して、足をぶっ壊してやるう。

左肘鉄をかわし、斬りつける、右の回転ブローをかわし斬りつける、^{みきこぼし}右拳の裏拳をかわし斬りつける。

俺は常に【ウッドゴーレム】の左のお尻側に位置するように動かため、俺を攻撃するには左足を使って回転しなければならぬ。

右拳による裏拳なら右足を軸に出来るが、それだと俺を視認できないため、攻撃があたらないうえに、俺が何処にいるかわからなくなるので、多用はできない。

よって、左足を軸にして動かざるを得ない、ふはは、どうだ？うざかるう？。

そうして、地味にダメージを蓄積していった結果。

【ウッドゴーレム】の足は、ぽつきり折れた。

ここまで、1時間くらいかった。

一発でも喰らうと死のデスゲーム、俺もよく集中力がもったよ…。

さて、足がぽつきり折れたゴーレムくん、腕力はまだ健在なので油断すると危ないが。

体がデカイので死角も多い、体の可動域が少ないので、後ろには攻撃できないのは確認済み、だからさつきまで、クルクル回って攻撃してきていたのだろう。

背後からすると近づいて、剣から持ち替えた、斧で頭を叩き割る。

人型だし、たぶん頭が弱点だろう。

頭を壊しても、動くようならちとめんどくさいが粉々にするしかないな。

と、まあ、そんな心配もなく頭部を破壊するとゴーレムは霞となって消えていった。

とりあえず、一撃も攻撃を喰らわずに倒せた、というと楽勝だったように聞こえるが。

こっちは一撃でもくらったら終わりだし【ウッドゴーレム】は意外と素早く何時攻撃をくらうかとヒヤヒヤものだった。

とりあえず、ボスを倒したので例のごとくあれがくるだろ…。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

ほいきた、今回はアイテムももらえるのか。

目の前にアイテムが三つある。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、かっこいい、勇者とかがもってそう。

2つ目、水晶で出来ている玉、野球のボールと同じくらいの大きさで綺麗な文様が刻まれている。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

栄養ドリンクが気になったので、それを取った。

取ってから気づいたが、先に【解析】を使つとけばよかった。

後悔先に立たずで、手をつけなかった剣と水晶玉が霞となって消えてしまった。

まあ、いいか。

んで、もらえる能力は以下の三つだった。

【共通語／会話・読み書き】

【盗賊の才能】

【縫製の才能】

ここは迷わず【共通語／会話・読み書き】をとる。

【ピロリン、シロウは【共通語／会話・読み書き】を習得した。】

そして、また、例のごとく次の階層へと進む。

拠点部屋に今回は何が追加されたかなあ？と見ると一目でわかる変化が起こっていた。

ベッドルームの壁の一角がガラス戸に変化している。

ガラガラあつと、戸を開けるとベランダが…。

洗濯物をお日様の下で干したいという願いが通じたのだろうか？

ベランダに出て上をみると雲ひとつない空に燦々と輝く太陽が…。

下を見ると延々と続く真っ暗で何も無い空間が…。

試しに【無限のポーチ】から剣を一本取り出し落としてみる。

ヒューーーーーー
ーッ。

…

…

…

あれ？音がしない…、地面にぶつかった音がしないよ？

たぶん、底なしなんだな。

怖い。

これも、深く考えたら負けな気がする。

とりあえず、増えた施設も確認できたし、今度は外に出てみよう。

【ウッドゴーレム】がうじゃうじゃいるようなら、ここでの狩りは一旦あきらめて、前の階層でレベルUPなりしてから再挑戦する事

になりそうだ。

あんなの複数相手に戦えん！前後で挟まれたら前の奴に気を取られてるうちに後ろから殴られて、ゲームオーバーだ！

ん？でも、あの大きさだと通路は通れないだろうしうまくすれば1対1に持ち込めるか？

まあ、とりあえず、ドアを開けて、外に出てみる。

…ドアの外はこれまでの階層とはだいぶ趣が変わっていた。

一言で言うところ洞窟、それも鍾乳石とかがある自然の洞窟みたい。

しかも、結構広い【ウッドゴーレム】くらいのデカさでも余裕で動き回れるくらいの広さだ。

そして、うじゃうじゃとではないが、ちらほらと【ウッドゴーレム】が見かけられる。

俺はスゴスゴと引き返して、前の階層でレベルUPに勤しむ事にした。

帰るときにドアを見ると、何もない空間に浮かんでいて笑えた。

9 話目っぽい（後書き）

拳を中心に直径60cm程のミニクレーター 拳を中心に直径

1m程のミニクレーター

に修正

ゴーレムの拳は結構でかい設定なのでこれくらいはいくだろうと…

10話目っぽい

さて、そういえば前の部屋に生活用品とか置きっぱなしだったな、取ってこないと…。

うん、共通語を取得したわけだし、エレベーター（またの名を拠点移動装置）を使ってみようつと。

ふむ、ここは5階層でいつこ下が4階層か…、知らない文字が頭の中で再構成されて、わかるようになるっていうのは不思議な感覚だな。

とりあえず、4階層の拠点部屋から鍋とか生活用品を持ってくる。

生乾きの洗濯物もコッチに持ってきて干す、せっかくベランダがあるんだし…。

そして、自販機のほうも使ってみることにする。

『アイテムを売る』と入力して、パンを一個いれてみる。

パンは一個、5 c r m^{グラム}で売れるらしい。

今度はパンを買ってみようとする、1個50 c r mするらしい。

今度は剣【ロングソード】を入れてみる、売値は1万3500 c r mで買値は13万5000 c r m…。

色々なアイテムで試して見た結果、売値は買値の10分の1になる

事、嗜好品の類はかなり高額になる事がわかった、【チョコポポ】
一個が1万c r mとかする。

あと、生活用品とか食料の値段から換算するに、たぶん 1 c r m
= 1円 くらいの価値だろうというのがわかった。

この自販機はこれからかなり利用する事になるだろう、【チョコポ
ポ】とか【ラウム肉】とか買うために…じゅる。

ああ、そういえばさっき手に入れた栄養ビンに【解析 …】を使
うのを忘れていたな、とりあえず効力を調べておくか…。

ふむふむ、名前は【ラストエリクシール】で、用は強力な回復薬つ
てところか。

ドリンク剤の様な見た目に反して、別に飲み薬ってわけではなく、
手に持って念じるだけで効果が発揮されるらしい、死んでさえなけ
れば、足がもげようが、心臓が潰れていようがすぐさま再生される
そうな。

まあ、そんな状況になど陥りたくはないが結構便利なアイテムだっ
たわけだな、一回こっきりの使い捨てみたいだが。

まあ、色々わかったところで、レベル上げにいくかあ。

というわけで、4階層でモンスターを何体か倒しているとLVが上
がった。

いつもどおり【ピロリロリロリン シロウはレベルが上がった】
という音声がながれた後に、聞き捨てならない音声が入った。

【成長限界に達しました、これ以上はLVは上がりません】

えっ？ちよっ？まじで？もうこれ以上LVあがないの？うそだよ
ね？

LV10で限界って低くない？っていうか、今のままだと5階層の
攻略がままならないんだけど。

NAME	シロウ
LV	10
HP	131
MP	154
ST	136
STR	166
VIT	169
DEX	136
AGI	180
INT	182
RES	137

） 一週間後 （

まじで、LVが上がらない、今までのLVアップのペースを考えるとやっぱり、限界に達したと考えるべきだろうな。

5階層の攻略どうしよう？

ん〜、一対一で【ウッドゴーレム】倒せたんだし、うまくやれば問題ないかな？

試しに行ってみるか！

…この後、考えが甘かった事を思い知らされる事になるわけだが、このときの俺はまだ何も知らなかった。

しばらくは、【ウッドゴーレム】を避けつつ探索をしていたが、そういつまでも避け続けられるわけではない。

どうしても、通りたい場所に【ウッドゴーレム】がいたために、攻撃をしかける事に…。

一度倒した事もあるし、周囲に他のモンスターがいなければ大丈夫だろうと持っていたのだが。

【ウッドゴーレム】と戦っている間に【養殖人間ようしよくにんげん】に背後に回りこまれていた。

正直、【ウッドゴーレム】を相手にするのにいっばいっばいで周囲の状況を確認している余裕がなかった。

まずい、気絶はマズイ、早く回復を、痛みをやわらげないと、意識を失えばそこに待つのは、死だ。

必死にまだ動く左手を使い【ラストエリクシル】を取り出し、回復しろと念じる。

すると、体の傷が癒え、千切れ飛んだ右腕も再生する。

ついでに、治療が終わっている詰め物をした歯も部位の欠損とみなされたのか、新しい歯が生えてきた。

まあ、そんなことはどうでもいい、俺は即座にその場から逃げ出した。

幸い【ウッドゴーレム】は足が遅い、俺が全力疾走すれば追いつけはしないだろう。

拠点部屋に戻り扉を閉めた後にその場で崩れ落ちる。

ゴーレム怖い、ゴーレム怖い、ゴーレム怖い【ラストエリクシル】がなければ確実に死んでたよ、あの時、栄養ドリンクのピンを選んでおいて良かったあ。

自分の悪運に感謝しつつも、もう二度と5階層に行かないと決意した。

もう、先に進むとかどうでもいい。

この4階層でもうまいメシは食えるし生きていくには困らないしずつとここで暮らしていけばいいじゃないか。

こうして、俺の冒険は終わりを迎えた。

俺はこれからもモンスターを倒しつつ生きていくだろう。

だが、この階層から進む事は、もうない…。

俺の冒険は終わったんだ…。

おしまい

おわりません、まだ続きます。

10話目っぽい(後書き)

流石に、こんな少年誌の打ち切りのような終わり方はしませんです。でも、ここで更新が滞ったりしたら、終わったんだと勘違いされそう。

はやく、続きを書かなければ。

11話目っぽい(前書き)

時間をばして結果だけが残った。

11話目っぽい

続き！

） あれから数十年の時が過ぎた ）

ついに、俺はゴーレムにリベンジする時が来た、見よこのステータスを！

NAME					シロウ
LV					95
HP					514
MP					681
STR					561
VIT					549
DEX					509
AGI					660
INT					726
RES					579

え？

LV10で成長の限界に達したんじゃないなかったのかって？

フフフ、それがだよ、【養殖人間・希少種】が、極稀に成長限界を引き上げるアイテムをドロップするのだよ。

それは、もう凄く低い確率で…、だいたい10万体に1体くらいの割合だから確立にして0.0001%だな。

まあ、そうして成長限界を引き上げつつ、このLVまでレベルUPを繰り返し続けたのだ、ちなみに現在の俺の成長限界はLV120だ。

なんで、こんなLVになるまで、進まなかったのかって？

だって、怖いんだもん、LV95になった今でさえ、【ウッドゴーレム】と戦うと思うと、ガクブルですよ…。

だが、今日こそ、5階層に繰り出すと決めたんだ。

頬を叩いて気合を入れる、鏡を見て身だしなみを整える、べつ、別に時間稼ぎをしているわけじゃないぞっ！？

それにしても、鏡を見て思うんだが、此処に来てから全然年をとっていない、むしろ若返っているようにさえ見える。

もう、何十年もたっているはずなんだけどなあ。

理由はわからないが、ここはそういう場所なんだろうと思って深く考えない、これも深く考えたら負けな事象なんだろうな…。

年は取らないけど、髪は伸びてうざい長さになっている、流石に後ろの髪は肩口くらいまでで切りそろえているんだが、自分でできるのはそれぐらいで。

今や俺の髪型は長髪オールバックになっている、短く刈り込むほうが好みんだけどなあ。

筋肉がついて、ガタイが良くなってることもあって、一見ヤクさんに見える、怖い。

いつまでも、うだうだ考えていると、決心が鈍りそうなので、扉を開けて外に出る。

緊張しながらも、しばらく歩いていると洞窟の奥に【ウッドゴーレム】を見つけた。

剣を抜き、じりじりと近づいていく事にする。

今使ってる剣は【バスタードソード】という剣だ、刃渡り1・2m程で柄が長く両手でも片手でも扱える便利な剣だ。

俺的にはもう少し重くてもいいんだけど、これ以上重い剣だと刃渡り2mとかになって取り回しづらいのでこの剣をつかっている。

ある程度近づいたところで【ウッドゴーレム】がこちらに気づき向かってきた。

ここは、自分の力を試すためにも正面から立ち向かう！

と、みせかけてススツと後ろに回りこむ、正面から立ち向かうの明らかなに実力差のある奴を相手にするときだけだ。

正面から立ち向かうなんて、馬鹿のすることですよ…。

っていつか【ウッドゴーレム】怖いし…。

そのまま左足に斬りつける。

ドガツ！ という音と共に【ウッドゴーレム】の足が吹っ飛んだ。

【ウッドゴーレム】が、バランスを失い後ろ向きに倒れこむ。

頭部がちょうどいい具合に降りてきたので、そのまま剣を頭めがけて振り下ろす、いわゆる兜割りだ。

俺の剣の一撃をうけた【ウッドゴーレム】の頭部は、パカツ と割れて真っ二つになった。

【ウッドゴーレム】はそのまま霞となって消えていき、後には木片がひとつ残された。

【解析】 をかけてみた、【魔法樹の木】というアイテムらしい、たぶん【ウッドゴーレム】のドロップアイテムなんだろう。

「フフフ、フハハハハッ！」

二撃！ あれだけ恐れていた【ウッドゴーレム】がたった二撃で墜ち

るとは！

圧倒的じゃないか我が軍は！軍などもっていないがな！

その後、テンションが上がってひゃっほい！状態の俺は見かけた【ウッドゴーレム】を片っ端から狩っていった。

【魔法樹の木片】を大量にゲットした。

12話目っぽい

翌日、小さいながらも確実な一步を踏み出した俺はさらに上の階層を目指す事にする。

今まで足踏みをしていた分、一気に駆け抜きたい！

というわけで、ボス部屋にたどり着いた。

目の前に居るのはドラゴンと犬を足して割ったような^{なまもの}生物だった。

犬から毛をとって変わりにウロコをはっ付けコウモリの羽をつけた感じだ。

その名も【ドッグドラゴン】…、見たまんまである。

ステータスは

LV	6
HP	130
MP	86
ST	90
STR	99
VIT	66
DEX	148
AGI	137
INT	65
RES	105

と、あまり高くない、むしろ【ウッドゴーレム】のほつが高いと思う。

なんだよコイツ【ウッドゴーレム】より先に出ろよ。

と、思いつつも、攻撃を開始する、…と、すぐに戦闘は終了した【ウッドゴーレム】をも凌駕する今の俺の敵ではなかった。

火を吐いてきたのは驚いたが…、流石はドラゴンと言ったところか。そいでもって、例のごとく音声が響いてきた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしで、能力は以下の三つから選べるようだ。

【魔法の才能】

【縫製の才能】

【盗賊の才能】

この中だと気になるのは【魔法の才能】かな？

というか、やっぱり魔法ってあるんだ。

俺は【魔法の才能】をゲットする。

せっかく【魔法の才能】を手に入れたので、試しに魔法を使

つてみようとしたが、魔法の使い方がわからない。

「ファイアーボール！」

「アイス！」

「ケル！」

「メガ テー！」

試しにに適当な魔法名を叫んでみるが、全然発動する気配がない。

いや、最後のは発動したらヤバイが…。

なんてこった！才能があっても魔法に関する知識がないと使えないのか…。

ちょっと、ショックを受けつつトボトボと次の階層へと進んだ。

拠点には地下室が追加されていた、階段を下りると広い部屋になっている。

窓がないのでちと暗い…、まあ、この部屋を使うことはないだろうから問題ないか。

前の拠点部屋から、生活用品を移して次の階層へ進む。

次の階層で【ドッグドラゴン】を倒し、【犬竜の鱗^{はつらんじ}】^{しん}というアイテムを手に入れた。

まがりなりにも竜なわけだし、鱗は防具の素材になるのだろうか？

そのまま探索を続行すると本日2度目のボス部屋にたどり着いた。

一日で二階層進むのは初じゃなからうか。

ボスはいっこ下の階層にいた【ドッグドラゴン】の色違いで【ドッグドラゴン】が緑色なのに対して、今回は青色。

【ドッグドラゴン・亜種^お】とかだろつか、【解析】をにかけてみる。

【ハイドッグドラゴン】

L V	7
H P	1 5 0
M P	1 0 6
S T	1 1 0
S T R	1 1 0
V I T	6 7
D E X	1 5 2
A G I	1 5 8
I N T	8 9
R E S	1 2 7

名前は【ハイドッグドラゴン】か…、なるほど…、マンネリを嫌ったんですね？わかります。

どちらにせよ、このステータスなら俺の敵ではないな。

剣で一閃、【ハイドッグドラゴン】を倒す。

いつもどおりの音声の後に能力をゲットする、今回もアイテムは無し。

今回は【盗賊の才能】をゲットする。

トラップを見つけたり、鍵を開けたり、トラップを解除したり、気配を消したり、聞き耳を立てたり、アイテムを盗んだりする才能だそうだ。

覚えておいて損はなさそうだと思う、この迷宮的なものには罠とか全然出てこないけど、これからは出ないとは限らない。

そのまま、次の階層に進み、拠点部屋の追加施設を確認する。

今回は、地下室にベランダが追加されていた、というか、ベランダがある時点でこの部屋はもう地下室じゃないな。

最初にあった部屋が2階でこの部屋が1階ということになるのだろうか？

なににせよ窓が出来たおかげで、明かりが入ってきて居心地がよくなった。

まあ、この部屋使わないけど。

今日はこの辺で探索をやめ、続きは明日にする。

いつもどおり、風呂は行って飯食って寝た。

ちなみに、お金に余裕があるのでご飯は毎日高級食材を使っている。

この数十年で自炊能力も上がったよ…。

おやすみなさい。

13話目っぽい

さて、次の階層だ！

というわけで、7階層目へ突入する。

モンスターを薙ぎ払いながらボス部屋を探して駆け回る。

このボスモンスターは【ゴブリン】だった、ファンタジー世界では定番のやられキャラだな。

ステータス

L V	8
H P	1 0 7
M P	6 5
S T	6 5
S T R	1 0 8
V I T	8 4
D E X	8 3
A G I	6 2
I N T	8 1
R E S	6 5

今までのモンスターと違って武器をもっているが、予想に違わず雑魚だったのでサクッと倒して次の階層へ進む。

取得能力は【縫製の才能】に決定。

拠点の追加設備は、1階の部屋のベランダが庭へと変化していた事だった。

日本の狭いお庭と同程度の広さだが…。

そいでもって次階層へと進み、ボス部屋へと一気に突き進む。

ボスは【ゴブリン・ファイター】だ。

ステータス

L V	9
H P	1 2 8
M P	6 5
S T	6 6
S T R	1 2 9
V I T	1 0 4
D E X	8 5
A G I	6 4
I N T	7 1
R E S	6 2

鈍と皮製の鎧を装備しているが、こいつもさして強くない、というか今の俺の力だと皮製の鎧ごとぶった切れる、サクッと倒して次へ進む。

取得能力は【錬金術の才能】

拠点の追加設備は、庭が広くなっていた事だった。

大体、奥行き50m×横幅100mくらいの広さだと思う、凄く広くなっててびっくりした。

とりあえずそれは置いといて次の階層へ進む。

ここも、ボス部屋までずんずん進む。

9階層目のボスは【ゴブリン・アーチャー】だった、ゴブリン3連続。

ステータス

LV	10
HP	85
MP	65
ST	65
STR	109
VIT	84
DEX	129
AGI	67
INT	99
RES	67

コイツの武器はアーチャーの名に違わず弓矢のようだ、【ゴブリン・アーチャー】に有利になるようにか、ボス部屋はかなり広い空間になっている。

【ゴブリン・アーチャー】が遠距離からびしはし矢を放^{はな}ってくる。

一発目、二発目と、矢をかわしながら近づいていく、AGIが上が

っている恩恵か今の俺には矢がスローモーションで飛んでくるように見える。

時には避け、時には剣で叩き落とし近づいていく、距離を詰められてしまえば【ゴブリン・アーチャー】に成すすべはない、サクッと【ゴブリン・アーチャー】を屠^{ほぐ}った。

能力は【鍛冶の才能】をゲットする。

拠点には1階の部屋のとなりにさらに部屋が追加されていた、40畳くらいあるでっかい部屋だった。

もっとも、俺が使うのは2階の部屋だけなんで宝の持ち腐れなんだが。

2階層下の拠点部屋から、生活用品を持ってきて、昼ごはんにする事にする。

昼ごはんはパンの耳を切らないことによって具をたくさん挟み込む事に成功した俺特性のサンドウィッチを食べながら、今日の予定を考える。

今日はもう、3階層も進んだわけだから、一旦探索を切り上げて武器や鎧の整備でもしようかな？

手に入れた能力の性能も気になるし…。

何気なく手に入れた【縫製の才能】 【錬金術の才能】

【鍛冶の才能】の三つだが。

三つの才能だと面白い事ができるらしい、何でもMPを消費する事によって、工程をすっ飛ばしてアイテムの生成ができるそうなの。

物理的に無理がくる事をやろうとすると、その分MPの消費も大きくなるが、逆に言えばMPさえあれば無茶な事ができるという事だ。

その日の午後は探索をせずに、武器や防具の修復を行ったり、服を繕ったり、改造したりして過ごした。

【バスタードソード改】を手に入れた。

説明しよう！【バスタードソード改】とは、既存のバスタードソードに鋼を加えて打ち直し、強度と破壊力の向上を図ったものだ。

その分、重量が増してしまっただが、今までの重量では物足りなかった俺にとってはこっちの方が使いやすい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8585x/>

異世界トリップっばい

2011年11月1日23時11分発行